

福岡県小学校 校長会報

次期学習指導要領への期待と対応

福岡県教育庁教育振興部
義務教育課長 矢野 勝也

福岡県小学校長会の皆様におかれましては、日頃から本県教育行政への御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

また、本年十月に開催された「第七十七回全国連合小学校長会研究協議会福岡大会」に当たっては、主催県として多大なる御尽力をいただき、本県はもとより、全国の小学校における組織運営、教育活動、人材育成等のさらなる充実につながる大きな成果をあげられましたこと、心から敬意を表します。

さて、本年九月、中央教育審議会教育課程企画特別部会から次期学習指導要領改訂に向けた「論点整理」が示されました。

「多様な子供たちを包摂できる教育課程の実現に向け、標準授業時数の弾力化を可能とする『調整授業時数制度』の導入等を通じ、各学校で柔軟な教育課程を編成可能としつつ、不登校児童生徒や特異な才能のある児童生徒等に特別の教育課程を編成可能とする」ことなどが示されております。

このことは、学校の裁量範囲が拡大し、児童生徒や学校の実態に応じたカリキュラム・マネジメントに向けて、校長先生方のリーダーシップや、創意工夫ある教育課程を編成・実施される教職員の皆様の創造的な視点が大変重要になってくるものと考えております。

また、現行制度下においても、各校で取組可能な部分も少なくなく、新しい指導要領を待つ

までもなく、積極的な対応が期待されております。

さらに、こうした新たな取組に当たっては、子どもたちが生きる将来をしっかりと見据えた上で対応していく必要があると考えております。

生産年齢人口比率が二〇五〇年に約五割となるといわれる「人口減少・少子高齢化社会」、AIやロボットで代替できる分野の雇用の減少が指摘される「高度なデジタル社会」、変化のスピードが加速する「VUCAの時代」、国の想定の二倍のペースで増加する在留外国人数でも実感する「グローバル化」といった言葉で象徴される社会は既に到来していると言えます。このような状況がさらに進むことが予想される社会を、希望をもって生きることができる確かな力を育成することは、私たちの責務と言えます。

このため、中教審の諮問文にも示されているように、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることをこれまで以上に重視した学校教育を展開していく必要があると考えております。

県教育委員会におきましても、優れた取組事例の蓄積をはじめ、各校の取組に役立つ資料や情報の発信、課題の洗い出しやその解決に資する条件整備や施策の実施など、小学校長会の皆様としっかりと連携して対応してまいります。

皆様の期待に応える教育行政の実現に向け、職員一丸となつて取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

発行人

福岡県小学校長会
会長 松本 剛

事務局

〒812-0053 福岡市東区箱崎2丁目52番1号
福岡リーセントホテル1階
TEL (092) 292-2292 FAX (092) 292-2294

特色ある学校経営

「AIで学ぶ」× 「ふるさとで学ぶ」教育

那珂川市立岩戸小学校長 安 陪 秀 樹

本校は、児童数一九七名という小規模校です。また、豊かな自然、歴史的な史跡、伝統行事といった多様で価値ある教育資源を有し、それを生かした教育活動を展開しています。近年、教育現場はICTの進展により大きな変革期を迎えています。本校も、時代の要請に答え、児童の主体的な学びを引き出すために生成AIの活用を視野に入れた授業改善を進めています。あわせて、地域の人財・文化・伝統を生かした地域連携カリキュラムを通し、子どもたちが「ふるさとを知り、誇りに思う心」を育む教育活動を行っています。

一 生成AIを活用した授業改善の取組

本校では、生成AIの教育的活用に関する研究に取り組み始めました。国語科・算数科を中心に、その可能性を模索しています。例えば、国語科の読解学習では、生成AIに例文を考えさせ、それに基づいて根拠となる叙述を探したり、妥当性を吟味したりする学習を試みています。算数科では、反復練習を必要とする児童には基礎的な計算問題を、応用力を求める児童には文章題や発展問題を提示することができないか、試行を重ねています。

教材研究においても生成AIの活用を検討しています。発問例の作成、誤答の分析、補助教材の案出などを通じて授業準備を効率化し、教

師が児童理解により集中できるよう支援することを考えています。今後は校内研修を通して段階的に導入を進め、児童の学びの質を高める実践へとつなげていきたいと思っています。

二 地域との連携を軸にしたカリキュラム

また、豊かな自然と歴史に恵まれた環境を生かし、地域の特色を前面に出した学びを展開しています。

(一) 郷土史の学び（六年生）

地域に残る史跡や伝承を通して地域の良さを見つめ直すため、地域の方を招いてのお話やフィールドワークを行っています。単なる知識の習得にとどまらず、地域の「ひと・もの・こと」に触れることで、子どもたちがふるさとへの理解と愛着を深めています。



【収穫した米を使った全校での餅つき体験】

(二) 米作り体験（五年生）

地元農家のご協力をいただき、田植え・稲刈り・餅つきといった一連の体験学習を実施しています。農業の大切さや自然の恵みに感謝する心を育むとともに、地域の方々との交流を通じて多世代のつながりを築いています。特に、餅つきは全学年の児童が体験し、楽しみながら収穫の喜びや地域の方との交流を楽しんでいます。

三 おわりに

生成AIによる新しい学びと、地域とのつながりを基盤とした学び。この二つの学びを通して、子どもたちは自ら考え、学びを深めながら、同時に自分の暮らす地域を理解し、誇りをもつ心を育んでいます。そして、「未来を切り拓く力」と「ふるさとを大切に思う心」を兼ね備えた子どもの育成を目指していきます。

みんなつながり 高め合う学校づくり

大刀洗町立大刀洗小学校長 野 田 美 紀

「『うめかき』いいな、熱く語ろう。」

『おにつちしま』で発表するんだ♪
毎週月曜日の活動の時間。学校オリジナルソング「大刀っ子パワーアップソング」の歌声が学校中に響き渡る。重点目標に向かう上で大切にしたいことを歌詞にしたこの歌を、子どもたちは大好きである。

本校には、重点目標（合言葉）「みんなつながり高め合う」に向かって、全校児童と全教職員が一丸となる仕組みがある。



【学校オリジナルダンスづくりの校内研修会】

四月、学校経営ビジョンを受けて、教職員で構成する「知・徳・体」三つのチームは、それぞれ、チーム構想を提案して、D・I・C・A・Pサイクルでチーム運営を行う。始業式の日、子どもたちが重点目標をイメージできるよう、チームごとに今年度目標とする児童の姿を劇や人形劇で表現する。新年度に赴任した教職員も、その準備を進める中で自然と学校の一員になつていく。

それぞれのチームには、高学年児童で構成する委員会が連動しており、重点目標に向かってアイデアを出し合い、活動していく。その一例を述べたい。

【チーム体と大刀っ子パワーアップ委員会の連動】

今年度は、学校オリジナルソングに合わせて踊る、学校オリジナルダンスづくりを進めている。このダンスは、体力の課題である「表現運動能力」を高めながら全校児童と全教職員で創

作し、つながり高め合うことを目的としている。

六月、「大刀っ子パワーアップ委員会」から、重点目標の歌に合わせた、学校オリジナルダンスづくりの提案がなされた。「委員会で動きをつくる」「学級ごとに動きをつくる」「先生たちがブラッシュアップする」パートを決めて、それぞれに動きを工夫していった。

七月中旬、ダンスの第一次案の動画を、委員会の児童とチーム「体」のメンバーで視聴し、成果と課題を整理・分析した。

七月末、校内研修会で、ダンスの課題を改善する視点を学び、児童の体力を高めるための動きへ、和気あいあいの中、改善していった。

九月、完成した学校オリジナルダンスを全教職員で初めて踊った後「こんな楽しいことができるなんて、この学校でよかった。」という声が聞こえてきた。子どもたちと教職員の協働によるダンスづくりの価値を実感した時間になった。

今後は、全校で踊ったり十一月の運動会で「大刀っ子パワーアップダンス」として保護者や地域へ披露したりする予定である。

このように、みんなで楽しみを創り出す学校の雰囲気がある中、子どもたちも学校への愛着を深め、今ある伝統を生かしながらよりよく改善していくこうとする気持ちを高めている。

校長として、「つながりの源は職員室から」「教職員の言動といった隠れたカリキュラムの共通理解・共通実践」「みんなで楽しみを創り出す」ことをモットーに学校づくりを進めているところである。今後も子ども同士、子どもと教職員、学校と地域の心のつながりが温かいものであることを願い、全教職員一丸となつて、子どもたちのために高め合っていきたい。

自己調整力を育む教育を目指して

柳川市立城内小学校長 古賀 弘行

本校は、福岡県重点課題研究指定校として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実について、研究を積み上げています。そして、本年度は、研究三年目として、教科での学びを、家庭学習や総合的な学習の時間、さらに児童会活動等にも生かしていきたいと考え、重点目標を「自分を 学校を 地域をよりよくする子ども」と設定し、全ての教育活動で自己調整力を育んでいます。

一 全員一律の宿題を廃止

本校では、家庭学習でも自己調整力を育むために「全員一律の宿題」を廃止しました。例えば、漢字の練習だったなら、金曜日に実施する漢字のミニテストで満点をとるという目標もち、それまでの期間、自分のペースで自分なりの方法で練習します。繰り返し練習する子もいれば、自分でテストをして間違えた字を分析して練習してくる子もいます。練習する日や量は、その子によって違います。ただし、目標点数がとれなかったら再テストを実施します。

また、算数科の自主学習では、予習をしてくる子もいるし、自分で教科書の問題の数値や形を変えながら理解を深めてくる子もいます。

理科や社会科では、教科書には載っていない内容で、興味関心をもったものを自ら詳しく調べてくる子もいます。一方、自主学習が難しい子については、担任が個別に支援を行っています。

二 学習の個性化の取組

上学年の総合的な学習の時間においては、自分の興味・関心から生じた課題について調べる「マイテーマ学習」を年間三十時間設定しています。マイテーマ学習の個々の課題は、学校や地域が抱える課題の解決、自己のスキルの向上など複数存在しますが、探究的な学びを繰り返していくうちに、最終的には学校や地域・社会をよりよくする活動の提案につながっていきます。指導に当たっては、上学年の総合的な学習の時間を固定し、同一時間に複数の教員で指導できる環境を整えています。そして、同じジャンルの課題をもつ子どもで異学年混合グループを構成し、協力して活動していくことができるようにしています。また、必要に応じて、実際に見学に出かけたり、GTを招いて取材を行ったりして学びを深め、十二月には、柳川市民文



【6年生が企画した挨拶ロードの取組】

化会館で「城内万博2025」を開催し、保護者、地域の方、お世話になったGTの方々などに、自分たちが学んだことと学校や地域・社会をよりよくする提案を行います。

三 主体的な児童会活動の取組

さらに、教科等で身に付けた自己調整力は、係活動や委員会活動においても発揮されています。自分たちで、学校や地域の課題を探り、よりよくしていくために、友達と協力しながら主体的に取組を企画し、計画的に実践しています。そこには、「やらされ感」がありません。

子どもたちの未来を支える

「確かな学力」の育成を目指して

飯塚市立上穂波小学校長 古 野 久美子

本校は、かつては石炭産業で栄えた、旧筑穂町の中心であった地域にあり、三郡山の麓に位置する自然豊かな学校です。二百十六名の子どもたちが、毎日のびのびと学校生活を送っています。

そのような環境のもと、本校の教育目標「やさしく・かしこく・たくましい かがやく上穂波の子どもの育成」に向けて教育活動に取り組んでいます。

一 本校の課題

本校は六学年中、四学年が単学級であり、クラス替えもなく、子どもたちの人間関係も固定化している状況です。また、学級担任のほとんどが教職経験四年未満であるため、経験不足による指導力の弱さから、学習の積み上げの不十

分が見られます。そのため、学力向上コーディネーターや研究主任を中心に全職員で共通理解を図りながら組織的、計画的に実践しています。

二 学力向上策

◆主題研修

本校の研究主題「主体的に課題を追求し、深い学びのある子どもの育成」個別最適・協働的な学びを取り入れた授業づくりを通して「の充実に向け、三つの視点から、目指す子ども像の実現に対する手立ての有効性を明らかにしています」。

【視点一】各教科の単元（指導）計画の中に個別最適な学びと協働的な学びを具体化した上で学習活動の充実を図る。

【視点二】各教科の目標（見方・考え方）に準拠した課題設定や振り返りを行い、個別最適な学びと協働的な学びの取組を評価する。



【個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICT活用組】

【視点三】個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTを活用する。

各学級一回の公開授業を行い、手立ての有効性について検証を行っています。

◆基礎・基本の確実な定着

学力向上コーディネーターや指導方法工夫改善加配が中心となり、子どもの実態に応じた取組を実践しています。具体的には次のとおりです。

- ・一、三、五年生の分割授業
- ・単元指定の入り込み授業
- ・五、六年生理科、外国語科の専科授業
- ・CD層のつまずきに焦点をあてた取組（ロングチャレンジ）

◆学力基盤づくり（徹底反復学習）

①朝のチャレンジタイム

朝学習では、音読、百マス計算、全漢字・熟語練習を行っています。徹底した取組と評価を行う事で、子どもたちの集中力を高め、漢字の確実な習得を目指しています。

②MIM（多層指導モデル）

一年生の国語科に位置付け、「読み」の指導においてつまずきが多い「特殊音節」に焦点をあて文字や語句を正しく読んだり、書いたり、なめらかに読んだりすることを目指しています。

これら徹底反復の取組は、飯塚市全体で取り組んでいる施策であり、百マス計算、漢字、MIMについて習熟の状況を把握するための検証も行っています。検証結果から課題を見だし、さらに改善に向けて取り組んでいます。

三 終わりに

子どもたちに「確かな学力」を身に付ける事は、子どもたちの未来を支える事につながると考えます。

本校が学校総体として進めてきたこれまでの取組がさらに充実したものになるよう推進していきます。

「社会を生き抜く力」を 養うために

直方市立直方西小学校長 山野 直樹

本校では、令和三年度より、総合的な学習の時間に、高学年児童を対象としてアントレプレナーシップ教育を行っています。アントレプレナーシップとは、日本語にすると「起業家精神」となりますが、本校では広く捉えて、「社会を生き抜く力」を養う教育と考えており、児童に対するキャリア教育の一環として、児童の社会や組織に対する能力の育成を図っています。この教育の中で重要なことは、「答えが一つではない問題に自主的に取り組むこと」、「問題解決の取組から価値創造を学ぶこと」、「達成感を味わうこと」の三つです。

○フィンランドへのプレゼン

令和四年度には、五・六年生を対象に「もし、フィンランドにお店を出したら、何を売るか」を題材にし、直方の名物や特産品を使った商品の販売のビジネスプランを児童自らが検討・作成しました。そして、そのプランを英語に訳し、オンラインでフィンランドの方にプレゼンを行う活動をしました。

○校内バザーへの出店

令和五年度からは、五年生を対象に保護者や地域の方をターゲットにしたビジネスプランの作成及び発表に加え、実際に児童自ら商品・サービスの開発や販売準備を行い、その集大成と

して、校内バザーへの出店を行う活動をしました。まず、導入時には、「お店とは何か」という問いからお店の仕組みを理解し、今後の計画について話し合う活動を行いました。

次に、活動計画に沿って、グループ決めを行い、各グループに分かれて、何をどのように販売するのかビジネスプランの検討を何度も試行錯誤しながら行いました。そして、グループごとに販売する商品を検討し、試作を行い、商品を決定して行きました。

そのうえで、商品の製作やポスターの製作、店舗設営の準備もグループで役割分担しながら進めて行きました。

販売日は、本校の学習発表会の日に設定していたので、たくさんの保護者や地域の方が来校していました。児童たちは、グループごとに工夫を凝らして出店し、保護者や地域の方にそれ



【保護者・地域の方への販売の様子】

それ商品をアピールしながら販売を行いました。

昨年度は、後日、市内にある高校の商業科二年生のクラスに來校してもらい交流を行いました。児童たちは、グループごとにこれまでの活動をプレゼンにまとめ、商品づくりの工夫や活動の様子などを発表し、高校生にアドバイスしてもらいました。児童たちは、これまでの取組について高校生に価値付けてもらうことで、取組の成果を実感することができていました。

これらの活動を通して、児童たちが、お店や仕事の仕組みを学び、自分たちで仕事のプランを創出しながら、自主性や責任感、協調性を身に付けてきました。今後も児童たちが自ら考えて行動する力を養っていきけるように改善を図りながら教育活動を推進していきます。

一人一人の関わりを大切に未来を 生き抜く児童の育成をめざして

行橋市立蓑島小学校長 土肥 伸晃

本校は、行橋市の南東部、周防灘に面した児童数五十四人の小規模校です。海と緑に囲まれた豊かな自然環境の中にあり、地域とともに歩む学校として、子ども一人一人を大切にした教育活動を実践しています。また、平成二十六年より行橋市教育委員会から小規模特認校に指定され、校区外から半数以上の子どもが蓑島小学校ならではの教育活動を受けるために通学しています。学校経営の柱は、「体験を通して学ぶ力の育成」「異学年の関わりによる学びの充実」「地域・保護者との協働による共育」です。

◇体験を通して学ぶ力の育成



【漁師さんから牡蠣の成長について話を聞いている様子】

「蓑島らしい」「蓑島でしかできない」体験活動を重視した教育を展開しています。一年生の歓迎遠足は、校区の浜でマテ貝掘りをします。一年生から六年生までの縦割り班で、地域の方や保護者の方も見守りの先生として参加して実施しています。また、宿泊学習では、朝早くから地域の魚市場で競りやバックヤードを見学したり、行橋特産の「豊前海一粒かき」の養殖いかだや漁の様子を見学したりしています。実際に「見て・触れて・感じる」学びを重ねることで、知識を自分のものとして定着させるとともに、地域への誇りと愛着を育んでいます。こうした体験的な学びは、子どもたちの主体性・協調性・問題解決力を育てる土台となっています。

◇異学年の関わりによる学びの充実

異学年の交流を大切にした教育活動で大切にしているのは、個々の役割の違う様々な活動で継続的に縦割り班活動することです。縦割り班での清掃、花やいもの苗植えなどを通して、上級生が下級生の手本となり、下級生が上級生に憧れ、互いに支え合う温かい関係を築いています。このような日常の関わりの中で、思いやりの心、責任感、リーダーシップが自然に育まれています。今では、一年生から六年生までの子どもたちで、サッカーなどで遊ぶ姿も見ることが出来ます。

◇地域・保護者との協働による共育

蓑島地区は、学校・家庭・地域の結びつきが強く、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を中心に、「地域とともにある学校経営」を実践し、地域・保護者との連携を軸とした学校づくりを進めています。学校運営協議会では、学校の課題を共有したり、課題解決のための熟議を行ったりしていますが、大切にしているのは、活動の際の子どもへの関わり方についても考え、共通理解していくことです。そのことが、地域・保護者との協働による共育につながっていると考えます。地域の方も保護者も積極的に学校運営に関わり、学校を「みんなで作る場」として支援しています。こうした協働の中で、子どもたちは「自分は地域に見守られ、期待されている存在」であることを感じ、社会への責任感や貢献の心を育んでいます。

◇おわりに

これからも蓑島小学校は、「蓑島らしい」「蓑島でしかできない」体験を大切に、他者との関わりやつながりを通して、「地域とともに歩む学校」として、地域に根ざした特色ある学校経営を推進していきます。

各部の活動報告

対策部活動状況の報告

対策部長 原 尾 宏 志

今年度の対策部の活動は、福岡県教育委員会への要望書の取りまとめ及び市町村教育委員会要望内容についての実態把握、東日本大震災被災地（宮城県）視察研修、全連小三地区対策担当者連絡協議会への参加、三部幹事会における情報交換が主な内容です。

一 本年度の要望書の重点項目

小学校・中学校の二回の合同会議において内容を検討し、七月十六日に次の八点を重点項目として県教委へ要望しました。

- ① 特別支援学級の標準定数の見直し
- ② 授業持ち時数削減、専科教員の採用及び採用の条件緩和、指導方法工夫改善教員の更なる増員
- ③ 特別支援教育に係る人的・物的環境の整備
- ④ 欠員が生じない教職員の任用
- ⑤ 教職員の処遇改善
- ⑥ 県立高等学校入学者選抜の適正な日程及び方法の継続検討
- ⑦ 部活動の適正化及び地域移行の推進
- ⑧ 勤務状況の改善を図る施策の具体化

十月三十一日の回答説明会で、県教委から要望した内容について、引き続き対策を検討するとともに国への働きかけや各市町教育委員会との連携を行っていくとの回答をいただきました。

二 東日本大震災被災地（宮城県）視察研修

県小学校長会視察団としては、平成二十六年から視察研修を実施しており、今回で八回目となりました。今回は震災当時に対応した教職員や行政職員だった方、語り部の方から貴重なお話を伺い、災害対応や防災について深く学ぶ研修となりました。

日時 令和七年八月四・五日

訪問先及び研修内容

【一日目】

○ 石巻市震災遺構大川小学校 視察

○ 伝承交流施設MEET門脇 視察

【二日目】

○ 気仙沼市東日本震災遺構伝承館 視察

○ 南三陸町震災復興祈念公園 視察

○ 南三陸町立志津川小学校 講話

この研修で得た学びは、単なる知識ではなく、校長としての「覚悟」を再認識する貴重な機会となりました。子どもの命を守るという責任を果たすために、日頃からの防災教育を真摯に進めていくことの重要性を痛感しました。

三 全連小三地区対策担当者連絡協議会

日時 令和七年十月三十日

場所 福岡リーセントホテル

協議題

- ① 特別部会の答申や改正給特法を踏まえて、学校における働き方改革や処遇改善について
 - ② 各地区の教員不足の状況と、教員の量の確保と支援員等の活用の取組について
- 三地区（中国・四国・九州地区の十七県）各県の対策担当者との協議について情報を共有しました。特に、処遇改善や人的配置の課題の

改善、業務の適正化など、各県が抱える課題の多くは共通しているものでした。全連小としても国に声を届けていくとの言葉をいただきました。あわせて、今後、本県においても要望活動へつなげることができるよう、対策部アンケート内容を検討していきたいと考えます。

調査研究部活動状況の報告

調査研究部長 安河内 勇 一

調査研究部は、県小学校長会の活動方針に基づき、研究主題「志をもち多様な他者と協働しながら次代を創る人財を育む学校経営の推進」を設定し、調査研究を行っています。

一 調査研究部アンケート

調査① 教員の資質能力向上について

調査② GIGAスクール構想推進について

調査③ 働き方改革の推進について

県内抽出の八十四校から回答をいただきました。その結果について簡単に報告します。

- ・資質向上に向けて重要な内容は、「児童理解」「使命感と熱意」が上位を占めた。
- ・授業改善は、八〇%の学校で進んでいる。
- ・授業改善に有効な方策は、「組織的・継続的な取組」「共通目標・共通実践」「学び合いと支え合いの風土の醸成」である。
- ・多くの学校でICT活用が進んでいる。「まずは使ってみる」段階から「より効果的な使い方」へと進化している。
- ・情報活用能力一覧は七十九%の学校で作成され、活用されている。
- ・働き方改革は八十三%の学校で進んでいる。

・働き方改革の取組内容は、「出退勤時刻の管理」「定時退校日の設定」「諸会議の削減」「ICTの活用」が多い。

※詳細は、各校に送付しているアンケート結果と考察をご覧ください。

二 三地区調研担当者連絡協議会

- ・日時 令和七年十月三十日(木)
- ・会場 福岡リーセントホテル
- ・参加者 中国、四国、九州地区十七県の調査研究部長

・内容 ①教員の資質向上に向けた取組

②学習指導要領全面实施六年目に係る取組状況と課題

福岡県として、調査研究部アンケートの結果と考察をもとに、次のように報告しました。

①教員の資質向上に向けた取組

②福岡県教員育成指標や全国教員研修プラットフォームを活用し、目標設定や振り返りを行い、効果的に支援を行っている。

③キャリアに応じた資質向上の取組は、管理職による指導・助言を中心に行っている。

④授業改善の取組を組織的に行っている。(授業チェックリストや授業スタンダードの活用)

⑤教員の業務が多岐にわたることや教員不足により研修の時間を十分に確保できない。

⑥学習指導要領全面实施六年目に係る取組状況と課題

⑦カリキュラム・マネジメントの実践を各学校の創意工夫で行っている。

⑧タブレット端末は、学年が上がるにつれて活用頻度や活用場面が増えている。

●教職員のICT活用能力とICT活用推進への意識をさらに高める必要がある。

この協議会を通して、他県の取組の成果や課題を知ることができました。

広報部活動状況の報告

広報部長 中尾 智 浩

広報部では、県小学校長会の活動方針に基づき、本県の教育活動の動向、諸団体・機関からの情報を収集し、適時性のある情報提供に努めながら、創意ある学校経営の充実に資するため、「小学校長会報」を発行するなど、積極的・組織的な広報活動を展開しています。

また、全国連合小学校長会からの広報依頼に対応し、「小学校時報」の原稿執筆、全連ホームページ「特色ある学校紹介」掲載への協力も行っています。

さらに、県小学校長会ホームページの充実と有用な情報提供への改善に努めています。

活動の実際と活動予定

一 県小学校長会及び各郡市校長会における広報活動の活性化に資する広報部長研修会

第一回 五月八日

(福岡県社会教育総合センターにおいて)
第二回 九月十七日・第三回 一月二十一日
(オンライン開催)

二 学校経営充実に資する県小学校長会報誌

「校長会報」の発行

【一〇五号】七月発行

内容「会長挨拶」(松本 剛会長)

「退任副会長挨拶」(六地区)

「新任校長抱負」(六地区)

【二〇六号】十二月発行

内容「県教育施策の見通し」

(義務教育課長)

「特色ある学校経営」(六地区)

「各部の活動報告」(各部長)

三 県小学校長会ホームページの充実・運用

更新内容

「令和七年度研修計画、年間行事、研修会一覧、欠席届」

「二年次校長研修会を終えて」

「校長会報一〇五号・一〇六号」

「事務所だより 各号」

「研究紀要執筆依頼・原稿様式」

四 全連小機関誌「小学校時報」への寄稿

【六月号】「全連小研究協議会福岡大会の準備状況と御案内」

大会実行委員長 松本 剛先生

「各都道府県校長会の動き」

福岡県小学校長会幹事長

出口 博雄先生

【九月号】「会員の声」

(GIGAスクール構想時代の情報モラル教育)

赤村立赤小学校長 平田 隆司先生

【十二月号】「第七十七回大会を終えて」

(第一〇第十三分会報告)

全連小福岡大会実行委員会分科会部

【二月号】「会員の声」

(全連小北海道大会の研究課題によせて)

宮若市立宮田北小学校長

花村 幸次郎先生

五 福岡県小学校長会「研究紀要」の作成

二月中旬発行予定